

## 山形とともに

東北電力㈱執行役員山形支店長

藤原 正雄氏



山形支店長に着任して2か月が過ぎました。山形への赴任は2回目となりますが、20数年ぶりのことで街並みも大きく変化しており、改めて年月の重みを感じております。一方で、山形県の皆さんの気性が穏やかで温かなこと、何を食べても美味しいことは変わらず安心いたしました。ソフトテニス仲間の皆さんからは、着任早々にお声をいただき、数年ぶりに練習を再開いたしました。

私は、昭和57年に東北電力に入社以来、土木建築部門に在籍し、東日本大震災発災時は、仙台の本店で主に水力発電所の維持・運用を担当する部署にいました。当時、福島市に自宅があり、仙台まで通勤しておりましたが、被災により公共交通機関が全て止まり、2週間ほど会社に寝泊りし災害対応業務を行なっておりました。震災直後の食事は、会社の食堂で社員が握った塩むすびだけでしたが、徐々に非常食や救援物資が届くようになり、震災後、私が初めてまともな食事として食べたのが山形から届い

た牛肉の弁当でした。あの時の美味しさと感動は忘れられません。震災による設備被害は私達が過去に経験したことがない甚大なものでしたが、皆さまから物心両面にわたる多大なる支援をいただき、一歩ずつ復旧することができました。この場をお借りしまして改めて感謝申し上げます。

さて、当社は、電力の小売全面自由化による競争激化や、2020年4月の送配電部門の法的分離を見据えて、今年4月にカンパニー制を導入し、7月には支店を、販売業務等を担う「支店」と送配電業務を担う「送配電カンパニー支社」に再編し、営業所と技術センターも同様に「営業所」と「電力センター」に再編いたしました。

このように当社を取巻く環境や組織形態は大きく変化しておりますが、「地域とともに成長・発展していく」という創立以来の想いは変わりません。今後とも皆さまの暮らしに欠かすことのできない電力の安定供給を通じて、山形の成長・発展に貢献していくとともに、環境保全活動や地域の祭りへの参加等により、地元の電力会社として地域にしっかりと寄り添ってまいります。

冒頭でも触れましたが、山形にはIWC（インターナショナル・ワイン・チャレンジ）2018SAKE部門でもその実力が証明された世界に誇る酒をはじめ、つや姫等の県産米、さくらんぼ、最近話題の山形セルリー、納豆汁、だし、四季折々のお漬物等々、豊かな食文化が根付いています。山形の「食」と地域を深く知り、従業員一人ひとりがPRをすることにより、山形県に寄り添い、継続した協力・支援を行ってまいります。

山形県は創業100年以上の老舗企業数が全国で一番多いとお聞きしました。私どもも地元の電力会社として100年先まで皆さまから信頼され、親しまれる企業となるよう「チーム東北電力」として取り組んでまいります。



### 今月の表紙

#### 「山形花笠まつり」

ふるさと画家・上野啓太氏作。「わが町」をテーマに、イラストでまちおこし運動を行っている「やまがたマーチング委員会」(事務局・㈱大風印刷)提供。